

# 浦幌町の石碑（上）

新宮廣文

## 1. 社日碑



- 浦幌町字東山町  
(浦幌神社境内)
- 建立年月日  
不詳
- 碑の総高  
138.5cm
- 碑文  
天照皇太神  
稻蒼魂命  
埴安媛命  
少彦名命  
大己貴命

## 2. 社日碑



- 浦幌町字東山町  
(浦幌神社境内)
- 建立年月日  
不詳
- 碑の総高  
151cm
- 碑文  
天照皇大神  
埴山姫命  
少彦名命  
大己貴命  
稻蒼魂命

## 3. 忠魂碑



- 浦幌町字東山町  
(浦幌神社境内)
- 建立年月日  
大正14年7月31日
- 碑の総高  
442.5cm
- 碑文  
忠魂碑  
陸軍中将國司伍七謹書

補記：明治以来、幾多の戦争で戦死された本町出身者の英靈を合祀して、大正14年に浦幌町字宝町（旧浦幌小学校々庭）に、時の第七師団長国司中将閣下の揮毫によって、忠魂碑を建立、毎年戦没者招魂祭が執行された。

戦後の混乱期には、一時解体したものを、昭和26年6月に現在地に再建、以来毎年6月25日に、戦没者殉公慰靈祭が執行されている。

## 碑之号ルーアースト

## 4. エストアール号の碑



- 浦幌町字帶富  
(浦幌町農協所有地内)
- 建立年月日  
昭和28年11月18日
- 碑の総高  
273.5cm
- 補記  
本碑は、当初浦幌町字新町農協所有地内にあったが昭和59年11月移転した。

碑文  
ボスチエフルトン種エストアール号は佛國の産昭和四年伯爵清浦末雄氏の購買に係り氣品高く骨格雄偉遺伝力强大にして其產駒成績極めて優秀管内に其比を見ず昭和七年以來二十有一年産せる駒実に一千五百余頭三百に及ぶ種雄と一千余の雌馬は十勝馬産事業革新の基礎をなせり昭和二十七年十一月齡二十七にして斃死す 仍茲に關係者相詢り有志協賛の下に此碑を建て、其功績を顕彰し以て永く后世に伝えんとするものなり  
昭和二十八年十一月十八日 守屋悟撰並書

## 5. 犬魂碑



- ・浦幌町字新町  
(浦幌町農協所有地内)
- ・建立年月日  
不詳
- ・碑の総高  
209cm
- ・補記 狂犬や野犬を処分した犬の靈を慰めるためその掌に当る浦幌町と農業共済組合で建立。昭和59年11月26日廢碑。

## 7. 森三樹二頌徳碑



- ・浦幌町字東山町 (浦幌神社境内)
- ・建立年月日 昭和4年7月
- ・碑の総高 381cm
- ・補記 碑の題字は、当時の北海道帝国大学総長正三位烈一等男爵農学博士佐藤昌介氏の揮毫により、台石に発企者7名、建設者31名の氏名と外5名と刻されている。本碑は、当初現在地の約100m北側に建立したが、昭和48年浦幌神社本殿の移転改築に伴ない、現在地に移転した。

## 8. 中川北松翁顕彰碑



- ・浦幌町字本町  
(淨福寺境内)
- ・建立年月日  
昭和52年11月
- ・碑の総高  
252.5cm
- ・補記 碑の題字及び裏面の碑文は教区会議員脇谷曉暢師の揮毫による。

## 6. 鳥獸魂碑



- ・浦幌町字東山町  
(浦幌神社境内内)
- ・建立年月日  
昭和54年10月14日
- ・碑の総高  
168.5cm
- ・補記 碑の裏面に建立年月日と北海道獵友会浦幌部会と刻している。

碑文

森三樹二氏阿波人也資性剛直當職忠誠  
令名夙著官爲賜勲七等青色桐葉章賞焉  
明治四十一年移居此地經營農場多年遂  
抵閑浦幌村發達之基大正八年六十六齡  
而歿矣所有耕地六百町小作農將百戸荒  
蕪開墾之功蓋不可沒也而更設土地分讓  
法使耕者固土著之念且戒其子孫使不省  
私利以舉共存共榮之實爲其任二代三樹  
二氏能守遺訓德望益加今浴其惠者三十  
有名相圖建此碑長欲頌其偉德矣

昭和四年春依囑

石塚衛撰併書

碑文

中川北松翁は明治三十年福井県より北海道の  
開拓を志し本町に入植した幼き頃より淨土真宗の  
み教えにはぐくまれ信仰の念あつく淨福寺の初代總  
代長として大正三年火災に遭禍した本堂の再建のた  
めに奔走し自ら境内地三千坪を寄進し門信徒と共に  
日夜労苦をいとわず同五年一年有余の歳月をか  
け十勝に誇る大伽藍を完成した信仰に生きる堅い  
信念は率先して仏恩報謝の実践に努め永年教法  
の護持に尽くされ現在の当寺の隆盛の基盤を成した  
功績は誠に顯著である仍て茲に翁の人徳を敬慕し  
遺徳を讃え後世に永く伝えんとするものである  
昭和五十二年十一月 釋哲朗 合掌  
發願人 淨福寺二世住職 北元哲誠  
總代長 木下徳松  
門信徒 同

## 9. 中川北松翁之像



- ・浦幌町字新町（浦幌町農業会館内）
- ・建立年月日 昭和44年9月23日
- ・碑の総高 265cm

## 10. 故野澤文治翁頌徳碑

故野澤文治翁ハ宮城縣ノ人資性篤厚ニシテ謹嚴人格高潔ノ士ナリ明治四十年北海道府属トシテ官界ニ一步ヲ踏ミ爾來累進シテ昭和三年農林主事ニ任ゼラレ正七位勲六等ニ叙セラル昭和五年退官後士幌村長ヲ経テ同十年本村々長ニ転ジ在職十有一年ニシテ昭和二十一年十一月七日退任暫ク閑暇ニアリタリ然ル處假初ノ病遽二革マリ同月十八日齡六十三歳ヲ一期トシテ忽焉トシテ他界ス

在任中時恰モ時変下内外多事多難ノ秋ニアリテ克ク村財政ノ健全化ト村治ノ改善充実ニ努メ又意ヲ土地改良ニ注ギテ殖産ノ振興ヲ計ルト共ニ幾十年ノ間水災ニ端グ下浦幌住民ヲ其慘禍ヨリ救フベク懸案ノ浦幌川改修工事施行ノ勦策ヲ進メ昭和十四年八月起工以来満四年余ノ歳月ト總工費八十五萬圓ニ上ル地方費ニ依テ昭和十八年十二月十二日爰ニ待久シカリシ延長六千六百間ニ及ブ新水路ノ竣功ヲ見ルニ至リタリ爾來幾年水禍ハ再び来ラズ住民皆其ノ生業ニ安ンジ生産ハ駿々トシテ増強ノ一途ヲ辿リ今日ノ隆昌ヲ驅歌スルニ至レリ即チ翁ガ老嫗ヲ駆ツテ東奔西走眞ニ寢食ヲ忘レテ之が完成ニ懸命ノ努力ヲ傾注セルソノ賜物ニ外ナラズ仍テ茲ニ関係地区有志相詢り廣く村民贊助ノ元ニ此碑ヲ建テ翁ガ徳ヲ敬慕シ其ノ偉大ナル功勞ヲ欽仰シ以テ永ク後世ニ之ヲ傳エントスルモノナリ

守屋悟撰並書

## 碑文

中川北松翁は福井県の人、北海道開拓を志し明治二十七年同志二十名と共に渡道醜寒風雪に耐え、千古斧鉄の地を切り開いて綠野となし、昭和二年赤貧に苦しむ農民を結集して浦幌産業組合を設立、爾來組合長として十八年間寢食を忘れて組合員の経済的地位向上と混同農業の振興発展に専念し、今日隆昌を遂げる本町農業と協同組合のゆるぎなき基礎を築いた翁の優れた洞察力と、高邁な人格特性は全組合員が齊しく敬仰して止まらず、ここに翁の胸像を建立し、偉大なる功績を讃えて永く後世に伝えんとするものである。

昭和四十四年九月二十三日

浦幌町農業協同組合  
組合長現事朝日

昇撰書



- ・浦幌町字東山町（浦幌神社境内）
- ・建立年月日 昭和24年9月
- ・碑の総高 446.5cm

## 11. 土田謙吉彰功碑



- ・浦幌町字本町  
(浄福寺境内)
  - ・建立年月日  
大正6年4月
  - ・碑の総高  
257cm
  - ・補記 碑の裏面に発起人4名の氏名が刻されている。

君名謙吉常陸筑波郡上郷村人家世素封幼志殖產興業明治初開郡中島名村原野栽茶五町餘十一年墾旭村荒地得田宅二十二町山林四十町開路四千餘間通渠一千九百餘間以移遊民植桑茶及諸穀又設製糖場名日土田村二十九年遊北海道相十勝國浦幌地日是可闢遂從事墾會得牧場七百町田圃四百町開路架橋三千餘間移民一百戶名曰土田農場因新築小學吏舍醫院皆捐其地價與工費俱凡五萬餘圓又創建香火院聘越中大谷派僧飯居琳為主喜捨田五町名曰謙敬寺取其偏名也四十三年大日本農會總裁貞良居士田道何若生生牙窮墾土種氏尤贊天功

12. 温故知新



- ・浦幌町字東山町（浦幌町郷土博物館敷地内）　・建立年月日 昭和44年6月5日
  - ・碑の総高 117.5cm　・補記 浦幌町開基70年を記念して、明治会が建立し、碑の裏面に明治会員51名の氏名が刻してある。

### 13. 名譽組合員 朝日 昇氏之像



- ・浦幌町字新町  
(浦幌町農業会館)
  - ・建立年月日  
昭和49年5月
  - ・碑の総高  
175.7cm

農業協同組合第十七回通常総会  
二四 名譽組合員推戴

履歷

## 14. 朝日浅吉翁之像



・浦幌町字東山町（浦幌神社境内）

浦幌町名譽町民 故朝日浅吉翁は 明治十五年福井県で出生 明治三十年北海道の開拓を志し渡道 居を浦幌町字活平に定めるや 福井県及び広島県より小作人の入地をはかり百八十余町歩の未墾地を墾き 駅通業と牧畜業を經營 昭和二年優れた体験者として北海道の委嘱に応え移民の招来に挺身爾來衆望を担われ 明治四十三年浦幌村議会議員として村政に参画 更に学務委員 農会評議員 農地委員及び農業委員会会长等数多くの公職を歴任 昭和三十二年高齢のため公職を辞任されるまで星霜寒に四十有八年その生涯を本町の行政 産業経済の發展 教育文化の興隆並びに町民福祉の増進に尽され 特に農業及び畜産の振興发展に寄与された翁の功績は本町のみならず十勝の産業開発進展の上に大きな貢献をなしたものとして陸軍大臣 農林大臣 建設大臣及び北海道知事から表彰の栄誉を受け 本町開拓の慈父として衆人斉しく景仰して止まざるところ ここに円満玲瓈玉の如き翁の人格と徳望とを敬慕する人々により翁の胸像を建立し もつて名譽町民故朝日浅吉翁の功德を後世に伝えんとするものであります

・建立年月日 昭和41年7月

・碑の総高 298.5cm

## 15. 吉川利昌氏像

浦幌町長 佐藤幸守  
ほか役場職員一同

浦幌町名譽町民前浦幌町長吉川利昌氏は 明治四十年本町下浦幌において出生 昭和七年より二十二年まで浦幌町職員として十五年間又昭和二十二年より三十八年まで浦幌町長として無競争四期十六年間の長きにわたり 卓越せる識見と豊富なる経験とを以て行政の衝にあたり 健全財政の確立と産業経済 教育文化の振興发展に寄与した業績は大きく 特に酪農の推進 十勝沖震災の復興 町制の施行 町村合併 稲穂開拓の推進など町民福祉の増進と民生安定のため尽力し更にこの間町森林組合長 十勝町村会長 北海道町村委会副会長など町内外の数多重要な公職を兼ねる等広く地方自治の伸展に尽された功労は極めて顕著なものがあり 町民ひとしく讃仰するところであります

ここに氏の高潔な人格とその徳望を常に敬慕する町職員が相はかり その功績を長く伝えんとし 新庁舎の落成を記念して胸像を建立するものであります

昭和四十五年十月

## 16. 浦幌新四国八十八ヶ所靈場

・浦幌町字東山（東山公園内）  
・建立年月日  
昭和36年5月  
・碑の総高  
189cm

## 17. 交通觀音

・浦幌町字東山町(東山公園内)  
・建立年月日  
昭和53年5月20日  
・碑の総高 163.4cm  
・補記 碑の台座の表面に題字、大和講11名の氏名あり。

## 18. 島山勲氏之像



- 浦幌町字桜町（浦幌町庁舎町民ホール）
- 建立年月日 昭和45年10月
- 碑の総高 177cm

## 19. 浦幌町庁舎



浦幌町役場  
景風 鈴木新松

浦幌町議会議員一同  
開基七十年  
是れ適に先人不滅の  
熱しなるべし  
祥烟の鑿びく存り  
尚浦幌に  
昭和四十五年九月

高く聳ゆ新庁舎  
果し得たり  
清川に泛ぶ  
陸は農牧饒かにして  
天惠の賦  
樹影鮮かなり  
海に銀鮓は躍る  
東山旭に映す  
平和の塔  
緑韻峯に連なつて

譲郷

## 20. 平和塔



- 浦幌町字東山町(東山公園山頂) • 建立年月日 昭和33年11月3日
- 碑の総高 10m • 補記 塔に浦幌町殉國者235名の氏名を刻してある。設計者は函館工業高校教諭川嶋龍司。

## 平和塔建設の趣旨

わが郷土浦幌は明治三十三年を開基とし、この間日露戦争から太平洋戦争までに殉國された本町出身者は、實に二百三十五柱をかぞえこの英靈は忠魂碑に合祀されてあるも、ここに一大和平塔を建設した所以は、この塔に英靈の芳名を録し、併せて分骨遺品を奉安して平和に繁栄する和協浦幌の象徴としていたい念願に發したものである。

ここ東山山頂は南に太平洋を臨み、その背後に広大な沃野と豊富な森林地帯を一望に收める絶好の地である。これをトしてここに祈念塔を建立して殉國戦士の徳風を敬仰し、世々代々英靈と共に生活する心にこそ明るく豊かな社会があると信ずるものである。

想うに戦争を永久に放棄した日本の現状は正に平和愛好の社会であり、その平和をもたらす動機となつた数々の戦争によつて尊くも犠牲となられた戦士と共に、当代に生を享けたわれわれは、この越旨の顯現こそ光榮ある責務であることを痛感し、全町民の協賛を得てこれが完成をみたものである。

## 21. 佛像建立の碑



- ・浦幌町字東山町（東山公園内）
- ・建立年月日 昭和36年5月21日
- ・碑の総高 199cm

合掌

## 佛像建立の趣旨

昭和三十五年四月本町の河内治作翁或日の事逝去した愛妻の夢を見て四国八十ヶ所の佛像の安置を志し之れを浦幌町長吉川利昌氏に町有地借用請願書提出町議会の協賛を得て建立の運びとなつたのであるが最初の意志に加ふるに數名の人々の協力を以て東山公園とし更に旧墓地の無縁佛をまつり戦没者の英靈を慰め更に東山公園をして一大莊嚴なる地域となさんとするものである而し乍らその建立の費用は誠に莫大なものがあつて容易ならず即ちそこで發願の本人は勿論橋本栄吉石田武等各部落の有志と共に全町を遍歴協賛を求め淨財を集め一年余の歳月を経て完成を見たのであるがこれが作者滝川市の住人の石工山崎鶴吉氏は現代稀に見る美術家でありこの作にあたつて現地に見る他の特志者と同じく本靈場のために盡されたのであるこれ等の靈場を參拜せられあまねく佛と弘法大師の恩恵を身に受け清らかな温かき精神の持主となつて社会に尽すことの出来る青少年が一人でも多く得られるならば望外の願成就と云へよう

## 22. 功徳碑



- ・浦幌町字東山町（東山公園内）
- ・建立年月日 昭和36年5月
- ・碑の総高 156cm

弘法  
聖地と成りて  
功徳には上こそなけれ  
トモ工  
施主 橋本 栄吉  
大師  
公園の  
社会あかるく

いつから 樹

こうして立っていたのだろう

いつまで 立ちつづけていくのだろう

かつて

その廻りでは

なにかがゆらめき

その内部には

なにかが渦巻き

人、人におあげてくる感情は

樹を心のささえとして

人生の像として躍動してきたはず

明るい日差しにきらめき

夜には

神秘な光を映す

決してくずれることのない

樹、樹のエネルギー

そのたしかな実存は

いま空にたち

しづかな炎になつて

炎えるのがみえる

### 23. 樹靈塔



- ・浦幌町字東山町  
(浦幌神社境内)
- ・建立年月日  
昭和49年6月24日
- ・碑の総高  
1,250cm

### 24. 仏碑



### 25. 愛郷雄飛



- ・浦幌町字宝町  
(旧浦幌小学校々庭)
- ・建立年月日 昭和59年9月30日
- ・碑の総高 187.5cm

### 26. 脈動



創立 明治二十八年六月一日第一浦幌尋常小学校認可設立  
下浦幌村字下浦幌四一線番外地

### 開校の由来

當校ハ始メ浦幌家庭教授所ト稱シ下浦幌村坂東農場二介在セル茅屋三假設シ二十七名ノ兒童ヲ収容シテ代用教員菊地是氏教授ヲ擔任セリ是レ本校創立ノ起源ニシテ實ニ明治三十七年八月十四日ナリ爾來或ハ第一浦幌尋常小学校ノ出張所トナリ次第尋常小学校トナル明治四十年六月一躍シテ第二浦幌尋常高等小学校トナリ當時在籍兒童數百三十七名ノ増加ヲ示セリ如此數年ノ間ニ急速ノ發展ヲナセルハ主トシテ交通機關ノ關係節チ本道函館鉄路間幹線開通ノ結果戸數俄カニ増加セルニ起因スルナランカ

学校沿革史ヨリ

- ・浦幌町字新町 (謙敬寺境内)
- ・建立年月日 昭和59年5月
- ・碑の総高 194.6cm
- ・補記 台座の横に、覚信尼公七百回忌を記念して建立。発起人2名、賛同者2名の氏名が刻されてある。

### 校名の変遷

- 一、明治四十年六月二十七日 第二浦幌尋常高等学校
- 二、大正十年十一月一日 浦幌尋常高等学校
- 一、昭和十六年四月一日 浦幌国民学校
- 一、昭和二十二年四月一日 浦幌小学校

昭和五十九年九月三十日

蒲幌小学校開校八十周年記念協賛会建立

- ・浦幌町字住吉町  
(浦幌小学校々庭)

- ・建立年月日 昭和59年9月30日
- ・碑の総高 180.7cm
- ・補記 開基80周年を記念して建立。タイムカプセルも埋納している。

## 27. 浦幌中学校開校10周年

- ・浦幌町字万年（浦幌中学校々庭）
- ・建立年月日 昭和59年10月28日
- ・碑の総高 522cm
- ・補記 開校10周年を記念して、記念事業協賛会で建立。



## 28. 浦幌神社(社号標)



- ・浦幌町字東山町（浦幌神社境内）
- ・建立年月日 昭和55年
- ・碑の総高 283.8cm



## 29. 弘法大師

- ・浦幌町字東山町（東山公園内）
- ・建立年月日 昭和36年5月
- ・碑の総高 390cm
- ・補記 台座の正面に題字、その向って左横に、発願、飯山真佐吉、昭和三十六年五月建之、と刻されている。

## 30. 社 日 碑



- ◀
- ・浦幌町字常室
  - ・建立年月日 大正7年頃
  - ・碑の総高 115.5cm
  - ・補記 明治32年3月6日に木碑で建立。

- ▶
- ・浦幌町字万年(八幡神社境内)
  - ・建立年月日 不詳
  - ・碑の総高 158cm



## 32. 忠魂碑



- 浦幌町字川上
- 建立年月日 昭和9年5月
- 碑の総高 152cm
- 補記 大正4年、八幡神社境内に木碑を創設してあったのを移転建立した。

## 34. 忠魂碑



- 浦幌町字十勝太 (十勝太神社境内)
- 建立年月日 昭和5年頃
- 碑の総高 172cm
- 補記 建立数年後、十勝小学校々庭に移転、戦後の混乱期には、一時土中に埋設してあったものを昭和28年に最初の建立地に再建した。

## 36. 開拓紀念碑



- 浦幌町字栄穂 (八幡神社境内)
- 建立年月日 大正7年8月
- 碑の総高 140cm
- 補記 碑の題字は第10代河西支序長田中瀧三郎氏の揮毫により、台座表面に明治三十八年三月着手。開拓建碑者 魁拓者二名、功労者三名、開拓者之内一名、建碑発起五名、全工執芳者十二名、石工二名の氏名が刻されている。

## 33. 忠魂碑



- 浦幌町字川流布 (川流布神社境内)
- 建立年月日 昭和36年9月15日
- 碑の総高 213cm
- 補記 大正9年9月15日、木碑を創設してあったのを再建した。碑の裏面に戦没者12名の氏名と建設委員5名の氏名が記されている。

## 35. 忠魂碑



- 浦幌町字恩根内 (八幡神社境内)
- 建立年月日 昭和32年9月
- 碑の総高 414.5cm

## 37. 加賀団体開拓紀念碑



明治四十壹年八月於石川縣津幡町被爲組織北海道移住團體哉自團員十六戸中舟田徳次郎氏推團體長爲移住地踏查全年九月全民來當地木越栄作氏君貢次氏及川島米次郎氏因案內遂實地調查也追而翌年二月百二十町歩受豫定存置地許可三月全員移住矣當時千古未墾原野到處巨木密生盡尚暗有感團長與適切指導因與團員勤勞十有餘年間排方難遂得見成拓今日故茲建立紀念碑欲傳永遠

當團體事蹟 大正十一年四月

- 浦幌町字稻穂（旧住吉神社境内）
- 建立年月日 大正11年4月
- 碑の総高 145cm

## 38. 稲穂開拓記念碑

- 浦幌町字稻穂（旧稻穂小学校東部）
- 建立年月日 昭和27年11月3日
- 碑の総高 5m
- 碑の題字は新宮広

力を得てこの碑を建立する

昭和三十七年十一月三日建之



浦幌町長 吉川 利昌

下頃部川の乱流が原因して荒れ果てた稻穂原野一千六百余町歩の開拓計画は、本町多年の重要懸案であり、昭和二十六年着手以来幾多の変遷と多難に遭遇したが、地域外地主の理解ある土地の提供と、町議会、農業委員会、開拓農協等の協力と、北海道開発局を初め各関係官公庁の特別なる支援により、多額の国費をもつて下頃部川改修工事を始め諸種の建設工事が実施され、なお住民の自興意欲の努力が一望の荒野を肥沃な農耕地に変貌し、ここに開拓農家八十九戸と増反者二十三戸の酪農郷が創設され、本町發展に寄与するところ多大である。この飛躍的發展を遂げた偉業とその成果を記念し、なお一層の生成發展を祈念するため協賛会の協

1989年3月20日	印刷行彦
1989年3月30日	発行秀旭
編集後藤	
発行責任者木村	
発行所浦幌町郷土博物館(089-56)	
北海道十勝郡浦幌町字東山町23番地の1	
印刷所大同出版紙業株式会社(080)	
北海道帯広市西7条南6丁目	